

327

1015

竹ノ栽培



始



竹

ノ

栽

培

327-1015

竹ノ栽培目次

第一 竹材輸出、消費.....一

第二 竹ノ種類、分布状態.....二

第三 苦竹林栽培法.....三

(一)

栽

培

イ、.....土地撰定.....三

ロ、.....植付地地拵.....四

ハ、.....母竹堀取方法.....四

ニ、.....植付ノ期節.....六

ホ、.....植付方法.....六

(二)

保護方法.....七

イ、.....施肥.....七

ロ、.....施肥ノ時期及其方法.....七

ハ、.....施肥量.....七

大正
6. 8. 22
内交

111-7

| | | |
|----|-------|----|
| ニ、 | 草入法 | 八 |
| ホ、 | 土入方法 | 八 |
| ヘ、 | 除草 | 九 |
| ト、 | 墻籬 | 九 |
| チ、 | 虫害 | 一〇 |
| 一 | 針金虫 | 一〇 |
| 二 | 夜盗虫 | 一一 |
| 三 | 玉蜂 | 一一 |
| リ、 | 病害 | 一二 |
| 一 | 蔓自然枯病 | 一二 |
| 二 | 朱病 | 一三 |
| 三 | 水枯病 | 一三 |
| 四 | 葉枯病 | 一四 |
| ヌ、 | 天候ノ害 | 一四 |
| 一 | 雪害 | 一四 |



(三)

| | | |
|----|-----------|----|
| 二 | 風害 | 一五 |
| ル、 | 過濕地ノ害 | 一五 |
| イ、 | 皆伐法 | 一六 |
| ロ、 | 新竹殘シ皆伐 | 一六 |
| ハ、 | 擇伐法 | 一六 |
| ニ、 | 伐期年齢 | 一七 |
| ホ、 | 伐竹期節 | 一七 |
| ヘ、 | 立竹ニ記號付ヌコト | 一八 |
| ト、 | 竹林疎密度 | 一八 |
| チ、 | 伐採方法 | 一九 |
| リ、 | 桿長推定 | 一九 |
| ヌ、 | 結束法 | 二〇 |
| イ、 | 副收穫物 | 二一 |
| イ、 | 止リ | 二二 |

(四)

イ、... 符(特徴採收法)..... 二二

| | | |
|-----|------------|----|
| 只、 | 皺竹筍(同上) | 三 |
| 八、 | 籜採收 | 三 |
| 一、 | 荒籜 | 三 |
| 二、 | 枝皮 | 三 |
| 二、 | 竹枝採收 | 三 |
| (五) | 更新法 | 三 |
| イ、 | 帶狀更新 | 三 |
| ロ、 | 皆伐更新 | 三 |
| ハ、 | 團狀更新 | 三 |
| (六) | 荒廢竹林ノ手入法 | 三 |
| (七) | 苦竹林收支計算 | 三 |
| | 本縣榛原郡下ノ實例 | 三 |
| | 京都地方ノ實例 | 三 |
| 第四 | 淡竹栽培法 | 四〇 |
| (一) | 病虫害其他被害ノ關係 | 四一 |

第五 孟宗竹栽培法

| | | |
|-----|----------|---|
| イ、 | 煤病 | 一 |
| ロ、 | 花自然枯 | 一 |
| (二) | 收穫竹數 | 二 |
| イ、 | 立竹數 | 二 |
| ロ、 | 收穫割合 | 二 |
| | 淡竹林收支計算表 | 三 |
| 第五 | 孟宗竹栽培法 | 三 |
| (一) | 沿革 | 三 |
| | 竹材目的ノ栽培 | 三 |
| イ、 | 栽培大要 | 四 |
| ロ、 | 害虫關係 | 四 |
| ハ、 | 保續年齡 | 四 |
| ニ、 | 立竹數 | 四 |
| ホ、 | 收穫 | 五 |
| | 孟宗林收支計算 | 五 |

(三)

筍目的ノ栽培法

1、栽培

- 一、土地探定.....四六
- 二、繁殖方法.....四六
- 三、母竹.....四六
- 四、植栽方法.....四七
- 五、誘引法.....四七
- 六、手入保護.....四七
- 七、親竹ノ保存.....四七
- 八、親竹梢切リ.....四八
- 九、培籬.....四八
- 十、施肥.....四八
- 十一、草入ト土入.....四八
- 十二、更新法.....四九
- 十三、更新方法.....四九

第六

本縣竹林ニ對スル獎勵施設

(三)(二)(一)

- 一、筍堀取方法.....四九
- 二、年末筍採取.....四九
- 三、普通筍ノ採取.....五〇
- 四、收支計算表.....五一
- 五、京都地方實例.....五一
- 六、自然枯ニ對スル諭告.....五七
- 七、竹林獎勵金交付規程.....五七
- 八、從來講話會開會町村.....六四

竹ノ栽培

第一 竹材輸出ト消費

竹材ノ利用ハ近時著シキ發展ヲ來シ歐米輸出増大シ最近輸出竹材竹工品計四百萬圓ノ巨額ニ昇リ尙ホ内地ニ於ケル消費又増加シ農業漁業土工建築家具竹材用等ヲ算スル時ハ概ネ三百三十余萬圓ヲ要シ本邦ノ竹材品ノ生産六百三十萬圓ノ多額ニ達シ殊ニ時局ノ爲メ鐵葉類昂高シタル爲メ樋筒代用等ニ使用倍加スルニ至リタリ而シテ本縣生産状態ヲ見ルニ竹材生産額僅ニ貳拾參萬圓内外ニシテ縣外移入ヲ仰クモノ約拾萬圓ヲ示ス傾向タリ是等竹材ノ移入先ハ九州、若狹、甲斐、越中、三河等ニシテ即チ本縣ニ於ケル竹材ハ需給一致セサル關係ヲ有ス之畢竟竹工品ノ製作旺ナルニヨリ多額ノ竹材ヲ消費スル次第ナリト雖モ亦竹林撫育ノ念慮甚タ幼稚ナルガ爲メ現在竹林ニ對シテモ諸害驅除豫防ヲ加フルモノ稀ニシテ殆ント自然ニ委スル傾キナルヲ以テ遂ニ竹林ノ衰頹ヲ來シ竹材生産力ノ減退又一因ナリトス

本縣ニ於テハ明治三十八年八月縣諭告ヲ發シ爾來病虫驅除豫防方法ニ付督勵シ尙ホ講師ヲ聘シ各地ニ講話會ヲ開會シ縣下生産家ノ注意ヲ促シツ、アルモ尙大正六年度ヨリ竹林改良補助獎勵策ヲ立テ以テ縣下竹林ノ開發ヲ圖リ現今ノ需給ニ鑑ミ速ニ竹材ノ供給ヲ得ベキ目的ヲ以テ竹林増植及荒廢竹林ノ更新ヲ完全ナラシメ以テ移入竹材ヲ防壓シ尙進テ移輸出地タラシメントス依テ當業者ニ對シ竹林ノ造成

方法ヲ普及スルノ必要益切ナルニヨリ參考トシテ栽培ノ大要ヲ記述シタリ

第一 竹ノ種類ト分布状態

竹ノ種類ハ頗ル多種ニシテ坪井翁ノ説ニ依レハ其數七十餘種ニ及ブト云フ而レトモ其用途最モ多キハ苦竹淡竹孟宗竹等ニシテ其分布状態ハ南臺灣ヨリ青森地方ニ及ビ長野縣下ニハ海拔三千百三十五呎ノ地ニモ竹林ノ存在スルモノアリト聞ク故ニ本縣ハ地勢氣象ヨリ見ルモ竹林ノ繁殖ニ恰適シ現ニ各地野生的竹林多種繁殖セリ殊ニ利用最モ多キ苦竹淡竹孟宗ノ分布又ハ不尠其面積貳千六百二十九町歩ニ及ベリ尙各郡別ニ擧クレハ左ノ如シ

| 郡名 | 面積 | 伐採數量 | 金額 | 備考 |
|----|---------|--------|--------|----|
| 志太 | 四九、六〇〇 | 五三、六四〇 | 三〇、八〇〇 | |
| 安倍 | 三六一、四〇〇 | 一七、四五四 | 一四、八七一 | |
| 田方 | 三四、一〇〇 | 六四、七三八 | 三八、〇一七 | |
| 賀茂 | 二六一、〇〇〇 | 三〇、二四五 | 一七、八八三 | |
| 磐田 | 二〇五、三四〇 | 二一、四二〇 | 一五、三三九 | |

| 郡名 | 面積 | 伐採數量 | 金額 | 備考 |
|----|------------|---------|---------|----|
| 庵原 | 一六八、六七三 | 二五、二〇〇 | 二〇、一六〇 | |
| 榛原 | 一六二、三〇〇 | 三三、五二〇 | 一二、九六九 | |
| 駿東 | 一五六、二〇〇 | 二六、二五〇 | 一七、七四三 | |
| 小笠 | 一五〇、一〇〇 | 二五、八八〇 | 一六、二一五 | |
| 富士 | 一四一、三〇〇 | 二九、九九八 | 一九、九九三 | |
| 引佐 | 一三三、二八四 | 一四、八六〇 | 七、八三九 | |
| 濱名 | 七四、六〇〇 | 一九、八三九 | 一二、八四三 | |
| 周智 | 五三、二〇〇 | 九、五五〇 | 五、八三八 | |
| 計 | 二、六三九、一四二六 | 三六一、三七三 | 二三〇、四三九 | |

第二 苦竹栽培法

(一) 栽培

イ、土地 撰定

竹林ヲ造成セントスルニハ先以テ地勢及土質ヲ調査スルノ必要アリ竹ハ北風ニ犯サレ易キモノ

ナルヲ以テ栽培地ノ方向ハ可成東南或ハ南西向ノ地ヲ可トス而シテ土質ハ第三又ハ第四期層ノ小石交リ壤土ニシテ地下水三、四尺下ヲ流下セバ頗ル良好ニシテ俗ニ杉生長良好ナル地ハ竹林恰適地ナリト稱ス然レドモ上述以外ノ地ト雖モ不可能ナルニアラズシテ人爲良ク美林ヲ形成セシムルヲ得ベシ即チ風害ニ對シテ防風樹又ハ障籬ヲ以テ防キ土質ニ對シテ敷草土入ヲ以テ改良シ得ベキヲ以テナリ現ニ竹林栽培ノ本場タル京都地方ニテ竹林ノ適地ハ腕ニアリ頭ニアリト稱シ何レノ地モ手入保護方法ニヨリ完全ナル竹林地トナスト稱セリ

■、植付地地拵

植栽セントスル土地立木地ナル時ハ風當強キ方面ニ防風樹ヲ殘シ其他ヲ深サ一尺内外ニ開墾シ若シ伐根其他ノ關係ニヨリ一時ニ開墾困難ノ場合ハ植栽個所丈ケ一間四方位宛開墾シテ植栽シ次年迄ニ必ス全地積ノ開墾ヲ完了スル如クス或ハ一時の農作物ノ間作ヲ行フモ一舉兩得ナリ此場合ニハ相當肥料ヲ施サハルベカラス

ハ、母竹掘取方法

竹林栽培上成績ノ良否ハ舉テ母竹ノ撰定掘取リ方法ノ如何ニ原因スト云フモ過言ニアラズ亦注意周到タラサルベカラズ即チ母竹ハ一年生或ハ二年生ニシテ廻リ二寸五分乃至四寸位ノモノヲ可トシ上根四周ニ擴張シ竹幹ヲ動搖スルモ根株不動状態ニアルモノニシテ尙可成枝條下部ヨリ

茂生シ病菌害ナキ良竹タルヲ要ス然レハ普通林縁ノモノハ之等條件ヲ具備シ且ツ掘取容易ナル爲メ佳良ナル母竹タルヲ得ベシ只茲ニ注意スベキハ竹林病害トシテ最モ虞ルベキ蔓自然枯病ハ林縁ノ竹枝ニ多ク繁殖セル事ナリトス

母竹掘取リニ當リテハ豫メ母竹ニ附スベキ根株ノ大サト鞭根走向トヲ辨ヘサルベカラズ即チ根株ハ可成大ナルヲ可トスト雖モ概シテ竹幹ノ大小ニヨリ八寸乃至一尺五寸ヲ直径トセル圓形ヲ標準トシテ定メ鞭根ノ走向ハ陽光ノ直射方向若ハ肥沃ナル地ニ向テ走ルヲ常トスルヲ以テ豫知シ得ベシ(下枝ノ繁茂旺ナル方向ヲ見テ知ルモ可ナリ)

而シテ掘取リニ際シテハ銳利ナル鍬ヲ用ヒ先ツ鞭根ヲ截斷シ叮嚀ニ掘取リ決シテ鞭根ヲ引割ク如キ事アルベカラズ若シ鞭根割裂シ繁殖機能タル鞭芽ヲ損傷シ又ハ幼筍ヲ附着セサル根株ハ之ヲ植付クルモ活着スルニ係ラズ發筍セサルベシ即チ俗ニ無能竹ト稱スルモノ之ナリ

掘取リヲ終リタルトキハ五六枚ヲ殘シテ梢端ヲ截斷シ根株ハ菰ヲ以テ包ミ繩ヲカケ土ノ落下ト乾害トニ備ヘサルベカラズ

尙ホ此外竹幹ヲ付セサル株植法ト稱スルモノアルモ是等撰定方法ハ桿付母竹ト異ナラズ唯地上ヨリ約三四寸位ニ竹桿ヲ伐去シタルモノナリ母竹トシテノ利害ハ運搬不便ノ地ニ於テハ運搬費ヲ輕減シ且ツ竹桿ノ利用亦ハ植栽后支柱ヲ要セサルノ利益アリト雖モ植栽后發筍細少ニシテ成

林遅遠ノ不利アリ故ニ桿付母竹ヲ用ユルヲ可トス

ニ、植付ノ期節

植付時期ハ極寒極暑以外四時行フコトヲ得ルモ最好ノ時期ハ春二月ヨリ四月迄秋九月ヨリ十一月トス古來入梅期節ヲ竹植時期ト稱スルモ是レ竹ハ水植法ヲ行フ時ハ枯損尠キモノナレバ此稱アルモノナルベシ然レトモ五月末ニ至ル時ハ筍發生ノ關係上移植ヲ好マサレバ前述ノ如ク初春初秋ヲ好時期トス

ホ、植付方法

植付方法ハ植栽本數ノ多少ニヨリ距離間隔異ナルモ普通一反歩植栽本數ハ六十本乃至百本位トシ長方、正方三角、植栽等種々アリト雖モ要ハ林地ノ經濟ト鬱閉ヲ速カナラシムルニ外ナク先以テ三角植栽ヲ可ナリトス
而シテ堀取リタル母竹ハ根部ヲ乾燥セシメザル如ク運搬シ、所定ノ位置ニ深サ一尺五寸周圍ニ尺位ニ植座ヲ堀リ(根株ノ大小ニヨリ)底部ニ細土ヲ入レ水ヲ注キテ泥土狀トナシ其上ニ母竹ヲ立テ鞭根方向ヲ林地ノ内部ニ匍匐スル如ク定メ僅ニ細土ヲ被ヒ其上ヨリ人糞又ハ鷄糞、水肥(三倍ノモノ)二升位ヲ注キ尙ホ土ヲ被フ若シ水肥困難ノ場合ハ米糠一升ニ同量ノ細土ヲ加ヘタルモノヲ施スモ可ナリ然シテ后又上部ヨリ水ヲ注ク時ハ極メテ安全ナリ根元ニハ藁又ハ枯草麥桿等三

(二)

保護方法

イ、施肥

肥料ノ種類ハ可成廉價ニシテ其効果大ナルヲ可トスルモ從來ノ經驗ニヨリ竹林ノ肥料トシテ行ハル、ハ人糞尿堆肥厩肥鷄糞粕類麥桿落葉紫雲英雜草綠肥等ナリトス
立テ緊縛シ風ノ爲メ動搖セザル如クス

ロ、施肥ノ時期及其方法

施肥ノ時期ハ其肥料ノ種類發筍ノ時期經濟ノ如何ニヨリ大ニ考慮ヲ要スベキモノニシテ普通行ハル、ハ壹ケ年二回位ヲ適度トセリ而シテ其期節ハ速効肥料ハ四月頃ヨリ七、八月頃迄遲効肥料ハ十月ヨリ翌年一月迄トス其方法ハ植栽母竹周圍一尺五寸位ノ處ヨリ順次外方ニ向ヒ圓形點狀ニ數箇ノ小穴ヲ堀リテ施肥シ鞭根ノ蔓延ヲ誘引ス斯クシテ毎年繰返シ八、九ケ年繼續スル時ハ鞭根次第ニ肥大シテ發筍漸次ニ増加スルモノナリ

ハ、施肥量

肥料ハ多量ニ施スヲ可トスルト雖モ又經濟上ヨリ打算シ可成小額ニシテ効果ヲ得ル如クスベシ

京都地方ニテハ人糞尿ハ一反歩百五十貫乃至四百五十貫トシ大豆粕十五貫乃至四十貫鶏糞ハ四十貫乃至百三十貫位施肥スルモ本縣ニテモ以上ノ二分一位ハ必ス實行ノ必要アリト認ム若シ地勢上施肥ノ困難ナル地ニアリテハ上述ノ方法ニヨラザルモ藁雜草落葉塵芥等ハ必ス施スベキモノトス

ニ、草 入 法

植栽後草入ハ土地ノ寒暑及乾濕ノ調和ヲ圖リ且ツ土地ヲ柔軟ナラシメ以テ鞭根ノ發達ヲ助クル等其効又大ナルモノナリ京都地方ニテハ新植ノ年ヨリ七八年間一株ニ對シ一貫目内外宛年次其量ヲ増加シ繼續施行スルトキハ施肥敷草等ヲ要セズシテ五六年ヲ放置シ得ベク爾後五六年目毎ニ五、六百貫草入ヲナスモノトス而シテ草入時期ハ十、十一月ノ間ニ行フヲ可トス

ホ、土 入 方 法

土入方法ハ竹林造成上最モ欠クベカラサル作業ニシテ草入ノ際ハ必ス之ヲ行フモノトス新植ノモノハ八ケ年間位連續的ニ行フモノナレトモ草入作業隔年ノ場合ハ其都度土入ヲ行フモノナリ然シテ一ケ年ノ土入量ハ各地方ニヨリ異ナレトモ一坪ノ土地ニ對シ拾六貫目(二荷)一反歩ニ付六百荷乃至九百荷トシ敷草ノ上ニ平均ナラシメ十年以後ハ鹿ノ子置トナシ後二三年ニシテ竹林ハ全ク完全林トナルモノナリ土入時期ハ十月ヨリ二月迄ニシテ夫レ以後ナルベカラズ斯クスル

時ハ鞭根ハ匍匐シ養分ヲ吸收シテ肥大トナリ上方ニ伸張シ來ルモノニシテ竹林ノ良否岐ル、作業ナリ土ノ採取ハ主トシテ林地ノ上方ヨリ掘取ルモノナルモ若シ林内凸地アル場合ハ是等ノ地ヨリ採取スルヲ常トス尙ホ傾斜ノ甚シキ地ニアリテハ一定箇所ヲ階段形ニ掘起シ其土ヲ林内ニ敷込ミ跡地ニハ母竹ヲ植栽シ若クハ肥料ヲ施シ鞭根誘引法ニヨリ竹林ヲ造成スルモノトス

ハ、除 草

竹林ニ於ケル除草ハ農作物ノ雜草除去ト同一ノ感念ナカルベカラズ殊ニ苦竹淡竹ハ淺根ナルガ爲メ雜草繁茂スル場合ハ土地ノ肥料分ヲ吸收セラレ且ツ土地ヲ緊縛シテ筍ノ發生ヲ害シ尙ホ副産物タル籜拾ヒ等ニ支障少ナカラズ故ニ雜草發生セシ場合ハ直ニ除去スルヲ可トス若シ根株ノ固着セル雜草ハ鎌ヲ以テ刈取り決シテ鍬ヲ使用スベカラズ是レ母竹ノ鞭根及發筍損傷ノ虞アレバナリ

而シテ其雜草除去ノ時期ハ一ケ年ニ一回ノ場合ハ夏土用中ニ行ヒ二回行ハントセバ六月及九月末日迄ニ適當ノ時期ヲ以テ行フモノトス

ト、墻 籬

苦竹及淡竹林ヲ栽培スルニハ植栽后必ス墻籬ヲ設ケサルベカラズ是レガ効用ハ日光ノ射入ヲ防キ林内ヲ乾燥セシメサルト且筍、籜竹材等ノ竊盜ヲ防キ保護上必要欠クベカラサルモノナリ築

造方法ハ種々アリト雖モ扁柏椹ノ類ヲ植栽シテ生垣トスルモノ或ハ木杭ヲ三尺乃至一間置位ニ打込ミ四、五尺ノ高ニ横ニ細木ヲ通シ之ニ竹枝又ハ粗朶等ヲ間隙ナク列ベ其上ヨリ小竹ヲ以テ押へ緊縛スルガ如ク頗ル簡易ナルモノニテ可ナリ縣下或地方ニテハ生竹ヲ曲ケ或ハ捻ジ又ハ半切トシテ横タヘ數ケ所ヲ縛シ以テ墻籬トナスモノアルモ之等ハ大ニ忌避スベキモノナリ何トナレバ是等曲ケ竹或ハ損傷竹ハ種々ノ病害ニ罹リ易ク殊ニ病菌中最モ虞ルベキ蔓自然枯菌ハ風ノ爲メ飛散シ初メ是等衰弱竹ヲ製ヒ順次林内ニ傳染スル實例アルヲ以テ曲捻竹ノ墻籬ハ絶對ニ避ケザル可ラズ

チ、虫 害

一、針 金 虫

性態 叩頭虫^{コウケムシ}ノ幼虫ニシテ甲翅目屬ナリ成虫ハ長サ四、五分位ノ甲虫ニシテ胸部ニ突出物アリ且ツ翅被アリ此虫ハ仰向ニナス時ハ音ヲ發シテ飛跳スル特徵アリ三月頃交尾シ五月中旬頃木竹ノ根元又ハ落葉下ニ産卵シ六月頃幼虫ニ化シ針金虫トナルモノナリ被害状態針金虫ハ長サ七八分灰色ヲ帯ビタルモノニシテ筍ノ根株ヲ喰害シ或ハ筍ノ尖端又ハ側面ヨリ侵入シ筍ノ養分ヲ吸收シ發生ヲ妨ケ或ハ枯死セシムルモノナリ 驅除豫防ハ適確ノ方法ナキモ被害筍ハ之ヲ採收シ其中ニ存在スルモノハ必ス捕殺シ叩頭虫

(甲虫)ハ蠶密ニ毒藥ヲ混シ誘殺スルカ或ハ蕪菁馬鈴薯ヲ諸所ニ散布シテ集合ヲ俟チ補殺スルモ一方法ナリトス

二、夜 盜 虫

性態 鱗翅目屬ノ昆虫ニシテ成虫ハ蛾トナル翼ヲ開ク時ハ一寸内外ニシテ體長ハ五分位アリ此ノ幼虫即チ夜盜虫ハ体長一寸四、五分淡紫色ヲ呈スルモノニシテ筍ヲ蝕害ノ後チハ老熟シテ結繭蛹化スルモノナリ 被害状況夜盜虫ハ針金虫ト殆ント同一ニシテ筍ノ上部又ハ側面ヨリ侵入シ内部ヲ蝕害ス被害筍ハ順次衰弱シテ遂ニ枯死スルニ至ル而シテ虫ノ侵入セシ箇所ニハ虫糞アリテ發見容易ナリ 驅除豫防方法 成虫ハ八月頃飛出ヅルモノナレバ針金虫ノ如ク毒藥混合劑ニヨリ誘殺スルカ或ハ蕪菁又ハ馬鈴薯ヲ摺リ小板ニ塗り付ケ集合セシメ捕殺スルモ簡便ナリトス

三、玉 蜂

性態 體ハ黑色ヲ呈シ透明ノ翅アリ體長二、三分ニシテ五月頃空中ニ飛出シ交尾ノ後チ新葉ノ基部ニ産卵スルモノナリ故ニ一年生ノ枝葉ハ未タ開カザル爲メ此ノ害ヲ免カル、コト多シ被害狀況多ク孟宗竹ヲ害スルモノニシテ苦竹ハ害少シ即チ竹葉ノ基部内ニテ養分ヲ吸收シテ生長シ恰モ竹ノ結實ヲ摸倣ス幼虫ハ秋期蛹トナリテ越冬ス

驅除豫防ニ付テハ被害ハ主トシテ枝葉ニ及ボスモノナレバ前述ノ如ク符發生後六月頃末々葉ノ開展セサル際即チ一年生ヲ殘シテ全部伐採シ枝葉ヲ燒毀スル時ハ驅除完全ナリトス

リ、病 害

一、蔓自然枯病(一名天狗巢病 雀紫病ト稱ス)

特徴竹ノ各種類ハ本病ニ侵サル、モ重ニ苦竹白皮竹ニ被害多キ一種ノ寄生菌ニシテ全國ニ傳播シ竹林造成上最モ虞ルヘキ傳染性病菌トス而シテ此ノ菌ハ竹枝ノ先端ニ紡錘形天狗巢狀トナリ六、七月頃白米六分一位ノ白粒トナリ孢子ヲ生シ盛ニ(麥刈時期ニ成熟ス)飛散シテ他ノ竹枝ノ先端ニ寄生シ養分ヲ吸收ス(孢子ハ六百倍ノ顯鏡ニテ蠶種粒位アリ)

被害狀況該害ニ罹リタル竹ハ天狗巢狀ノ小枝ノ爲梢部曲リ養分欠乏シ竹桿黃色ニ變シ材質脆弱トナリ尚ホ符ノ發生漸次減退シ病勢進ムニ從ヒ遂ニ枯死スルモノナリ

驅除豫防本病ハ竹林中ノ傷種竹、姥竹、生垣竹等ニ傳染シ順次健全ナル竹材ニ及ボスモノナレバ若シ被害竹發生ノ場合ハ直ニ除去スルハ勿論ナルモ其方法トシテ罹病竹枝三分ノ二以上ニ及ビタルモノハ伐採ノ上竹桿ヲ利用シ枝葉ハ直ニ燒毀スルヲ可トシ夫レ以下ノ場合ハ鎌ヲ長桿ニ縛シ被害枝ヲ刈取り速ニ燒毀スベシ尙被害竹枝伐除ノ時期ハ孢子ノ發生セサル前後タル十一月ヨリ四月迄ヲ可トス

二、朱

病(入黒病、節自然枯トモ云フ)

特徴名稱ノ如ク其色朱色ヲ呈シ竹桿ノ節間ニ寄生スル銹菌類ナリ其形V字形ニシテ十月頃ヨリ發生シテ五月頃盛ニ繁殖ス濕潤ノ場合ハ粘狀ヲ呈シ乾燥スル場合ハ硬狀トナル

被害狀況 本病ハ主トシテ女竹ニ多ク苦竹、淡竹、皺竹及傷害竹等モ侵害サレ易シ即チ該病ニ罹リタル竹ハ其跡黒点ヲ生シ勢力衰ヘ符ノ發生ヲ減退シ竹材ノ工藝的性質ヲ粗惡ナラシムルコト大ナリ

驅除豫防 本病發生ノ場合ハ林内ヲ充分清掃シ石油、石炭酸、ホルドー液ヲ以テ被害箇所ニ塗抹スル事數回ナル時ハ殺菌驅除シ得ベキモノナリ本病菌ハ蔓自然枯ニ比シ傳染緩漫ナルモ速ニ驅除セサル場合ハ竹林ノ荒廢ヲ來スモノナリ

三、水 枯 病(俗ニ醬油樽トモ云フ)

特徴竹桿ノ筒間ニ水液ノ滯溜スル病ニシテ之ガ發生ノ初期ヲ知ルコト甚々困難ナルモノナリ被害狀況 苦竹林ニ生スル病ニシテ發病後一二年ニシテ春期竹桿變色シテ黃色トナリ枝葉凋衰シ黒褐色トナリテ枯死スルモノナリ水液ノ滯溜スル箇所ハ竹桿ノ中央部ニ多キモノナリ

驅除豫防 本病ニ對スル性状確定セザル如キモ三宅農學士ハ本病ハ植物學上一種ノ菌類竹桿ニ寄生シテ内部ニ侵入シ組織ヲ侵ス爲メ雨水其間隙ヨリ侵入シテ竹筒中ニ滯溜スルモノナリ

トシ川村理學士ハ竹桿發生以前ニ根莖ニ菌害ヲ受ケ病根ヨリ地下ノ營養ヲ仰キツ、アル竹桿ハ發芽ノ后他ノ健全ナル竹桿ト同一ニ發育スルコト能ハズ遂ニ竹自身ノ液汁内腔ニ浸出滯溜シ本病特有ノ病桿トナルモノナリト稱シ諸説一致セサル如キモ病源地下ニアルモノ、如ク硫黃ヲ撒劑トシテ用ヒ林内土壤ヲ消毒スルヲ以テ最モ有効ナリト云フ

四、葉 枯 病

特徴本病源ハ未タ確定セラレサレドモ頗ル急症的ノモノニシテ一、二日ニシテ凋落スルモノナリ

被害狀況 竹林ノ一部又ハ全林急激ニ枯死スルモノニシテ枝葉ノ全部凋落シ竹桿從テ變色枯死スルモノナリ

リ、天 候 ノ 害

一、雪 害

被害狀況積雪ノ多キ地方ニ於テハ竹桿ヲ曲ケ或ハ挫折シ殊ニ傾斜地ハ積雪トナリ全林ヲ害スルコトアリテ竹林家ノ最モ注意ヲ要スルモノナリ

豫防方法 降雪ノ多キ地方ニ於テハ藪巻法ト稱シ七、八坪ノ竹桿ヲ地上五尺ノ所ヨリ梢部迄繩ニテ卷付ケ圓錐狀トナシタルモノト尙ホ竹桿五六十本位ヲ縛リ合セタルモノ或ハ地上高ク

八番線位ノ針金ヲ張り竹桿ノ灣曲ヲ支フ如クシテ豫防ス尙ホ京都地方ニテハ降雪ノ場合晝夜ノ別ナク竹林ヲ巡視シ竹桿ノ雪ヲ振り落シ雪害ヲ防クト云フ

二、風 害

竹林ハ風ヲ厭フモノニシテ風力大ナル場合ハ竹桿ヲ挫折シ且ツ動搖ノ爲メ鞭根ニ影響シ筍ノ發生減退ス殊ニ發筍生長シテ枝葉擴張シ初メタル時ハ其害甚大ニシテ殆ント全滅ニ陥ルコトアリ例令傷害ヲ被ラサルモ風當リ強キ地方ノ竹材ハ節高ク短桿ニシテ材質亦粗惡ナリ

豫防法ハ主風ノ方向ニ風防樹トシテ松、杉、扁柏、檜等ヲ植エ可成同一竹桿ノ竹林ヲ仕立テ抵抗力ヲ大ナラシムルヲ要ス

ス、濕 潤 ノ 害

一、濕潤地ハ筍ノ發生減少シ甚シキハ鞭根ヲ腐朽シ全林滅亡ニ至ルコトアリ

豫防法ハ林地ノ四周ニ深サ一尺内外ノ排水溝ヲ設ケ尙ホ濕潤甚シキ場合ハ林内ニ數條ノ溝渠ヲ作り以テ排水セシムルヲ要ス肥料ハ可成濕氣ヲ醸成セサル肥料ヲ少量ツ、施スヲ可トス

(三) 伐 採 方 法

竹材ノ伐採ハ適當ナラサレバ竹材ヲ粗惡ニシ尙ホ林地ヲ荒廢セシムルコト言フ俟タズ故ニ伐採方法ニ付テハ深甚ノ注意ヲ要スルモノナリ左ニ現今行ハル、伐採方法ニ付記述スレバ左ノ如シ

イ、皆伐法

皆伐法ハ全林一度ニ伐採スルモノニシテ舊慣的ニ行ヒツ、アルモ此ノ伐採方法ハ一時的收穫多キモ其不利益大ナルモノナリ即チ未熟ノ竹材ヲ伐採スルノ不利ナルト林地ヲ荒廢シ地力ヲ減退スル事甚シク且ツ皆伐ヲ行ヒタル后現狀ニ復スル迄ニハ九ケ年余ヲ費シ其間連年収入ヲ得ズ故ニ竹林家トシテハ更新被害防除等特別ノ場合ノ外行フベキ方法ニアラズ

ロ、新竹殘シ皆伐

新竹殘シ皆伐方法ハ一年生ノ竹桿ヲ殘シ他ハ全部伐採スルモノニシテ之ハ前者ヨリ幾分優リタル方法ナルモ殘留スル新竹ハ風害ニ罹リ易ク且ツ二、三年生竹ノ伐採ハ鞭根ヲ細小ナラシメ林地ノ荒廢ハ前者ニ類シ舊ニ復スル迄ニハ八年余ヲ要スルモノナリ此方法モ又舊慣ニ依リ行フ地方アリ、雖モ竹林家トシテハ特種ノ場合ノ外行フベキモノニアラサルナリ

ハ、擇伐法

此方法ハ竹林造成家ノ最モ有利ナル方法トシテ一般行ハル、モノニシテ即チ竹林ノ最モ好適伐期齡タル四年乃至五年生ニ至ル竹桿ヲ連年擇伐利用スルモノナリ此伐採方法ハ一舉兩得トモ稱スベキモノニシテ即チ連年収入ヲ得ル爲メ經濟上ノ利益ヲ得尙ホ立竹數ノ四分一或ハ五分一丈ヲ伐採スルモノナレバ過伐ノ虞ナク林地ノ保續ヲ圖ル等安固タル利益アリテ竹林家ハ此方法ニ

ヨルヲ適策トス論者或ハ皆伐法ノ收入ハ一時ニ多數ノ金額ヲ得ルト伐採上ノ監督及伐採人夫等ノ節約アリトシ皆伐法利益大ナリト稱フルモノナキニアラサルモ是等ハ皮想ノ感ニ止リ擇伐法ニヨル連年収入ニヨリ元利加算スルトキハ前者ヨリ遙ニ大ナルノミナラズ林地保續ノ利益アリテ到底比スベクモアラス其他伐採方法トシテ一年置ニ擇伐ヲ行フ地方アルモ此場合ハ四、五年生ヲ隔年伐採スルモノニシテ擇伐法ニ次ク良法ナリトス

ニ、伐期年齢

竹林ハ樹林ト異リ發筍後地上ニ出テ僅々四十五日間ニシテ成長点ニ達シ以后上長肥大スルコトナシ而シテ苦竹淡竹ノ繁殖力最モ大ナルハ三年生ニシテ以后ハ順次鞭根衰亡ニ傾キ六、七年生以后ハ繁殖能力ヲ失スルノミナラズ反テ土壤ヲ緊縛シテ他ノ有用新進ノ鞭根發達ヲ阻害スルモノニシテ遂ニ竹林荒廢シ(俗ニ下リ)筍ノ發生減少シ且ツ病虫害ニ罹リ易キモノナリ故ニ苦竹淡竹ハ五年生以上ノ竹桿ハ伐採整理シ繁殖力旺盛ナル三年生以下ノ安全ヲ保ツベシ古來伐採方法ノ諺ニ四切三置ト稱ヘ古詩ニ「留三切四勿レ存レ七」等アリテ即チ竹ハ三年生ハ繁殖力全盛期四年生ハ竹材ノ良質時季七年生以上ハ有害無益ナルノ古稱ナリ

ホ、伐竹期節

竹材ノ伐採時期ノ如何ニヨリ工藝的利用上至大ノ關係アリ即チ春期伐採セル竹材ハ保存期短ク

秋期九月ヨリ十一月迄ニ伐採シタル竹材ハ保存力長ク且ツ工藝上最モ良質ニシテ價格二割以上高價ナルヲ普通トス故ニ竹ハ秋期伐採ヲ最好時期トス古諺ニ木六、竹八、ノ稱アリテ木ハ舊六月竹ハ舊八月ノ伐採期ノ稱呼ナリト云フ

ハ、立竹ニハ記號ヲ付スルコト

前述ノ如ク竹ノ伐採ハ幼老竹ノ如何ニヨリ至大ノ利害關係アルヲ以テ擇伐作業ニヨル場合其判別ヲ便ナラシムル爲メ新竹ニハ必ス記號ヲ付スルヲ可トス例令ヘバ大正五年ノ新竹ニハ五ノ字ヲ書シ六年ニハ六ヲ或ハ十二支等ニヨリ墨ヲ以テ發笥后下枝ノ擴張時期ニ記載スル時ハ四五ケ年ハ消滅セザルナリ然シテ此印ヲ付スル場合竹林ヲ東西南北ニ區別シ其方向ニ向テ記號ヲ付シ置ク時ハ四年生ニ該當スル竹ヨリ伐採スル場合ニ頗ル便利ニシテ幼老ヲ誤ル虞ナク且ツ伐採人夫使用上ノ利益大ナリ

ト、竹林ノ粗密度

立竹ノ粗密ハ竹材ノ大小及地勢及栽培目的等ニヨリ差違アルモノナルモ京都地方ニ於ケル立竹數ハ一反歩ニ對シ苦竹ハ六百本乃至一千五百本淡竹ハ八百本乃至一千五百本孟宗六百本乃至九百本ニシテ本縣榛原郡地方ニテハ苦竹七百乃至一千九百本淡竹九百本乃至一千八百本孟宗五百本乃至七百本ナリ

チ、伐採方法

伐採器具ハ鋸、鉋、鎌等ニシテ其切り方ハ竹材ノ大小ニヨリ異ナルモノニシテ京都地方ニシテハ左ノ如シ

- 八寸廻リ以上ノ竹材 鋸切(若シ鉋ニテ切リタル場合ハ七寸竹ト見做ス)
- 七寸(廻リ) 鉋切(蓮花形ニ廻リ)
- 六寸以下 鉋切(斜切トナ)

以上ノ如ク器具ノ使用ヲ異ニスルハ全ク竹材利用上利用率ヲ可成大ニシ又ハ伐竹費ヲ可成節約センカ爲メニ外ナラズ即チ廻リ八寸竹以上ニ鋸ヲ用フルハ八寸以上ノ竹ハ多ク酒樽ノ箍ニ使用セラル、爲メ僅カニテモ長キヲ尊フ關係上鋸ヲ用ヒ地表ニ接シテ伐採シ廻リ六寸以下ノモノヲ鉋ヲ以テ斜切リトナスハ幹長幾分ノ減少ハ材價ニ影響ナキヲ以テ作業ノ敏速ナルヲ重ンジタルカ爲ニシテ廻リ七寸以上ノ竹ヲ花形ニ切ルハ中庸ノ方法ニヨルモノナリ

リ、幹長推定

竹幹ノ長サハ適地及其他ニヨリ一定セザルモノナルモ生育良好ナル竹材ハ大概左ノ標準ニヨリ推定スルモノナリ

胸高五寸廻リハ 五 間

| | | | | |
|---|-------|---|---|----------|
| 同 | 六寸廻リハ | 六 | 間 | |
| 同 | 七寸廻リハ | 七 | 間 | |
| 同 | 八寸廻リハ | 八 | 間 | |
| 同 | 九寸廻リハ | 九 | 間 | |
| 同 | 一尺廻リハ | 十 | 間 | 以上此標準ニ依ル |

ス、結 束 法

以上伐採了シタル時ハ結束セサルベカラズ然レトモ賣買上市場ニ於テ其數量一定セサルハ取引ノ不便不利尠ナカラサルモノナリ左ニ京都地方ノ目下行ハレツ、アルモノヲ記セバ

(苦竹、淡竹)

| | | |
|-----|--------|----|
| 尺二寸 | 一本 | 一束 |
| 尺一寸 | 一本二分五厘 | 一束 |
| 尺 | 一本半 | 一束 |
| 九寸 | 二本 | 一束 |
| 八寸 | 三本 | 一束 |
| 七寸 | 四本 | 一束 |

但シ寸以下ハ五捨六入トシ一駄ハ四束トス

(四) 副收穫物

イ、止リ 筍

| | | |
|------|--------|----|
| 六寸 | 六本 | 一束 |
| 五寸 | 十本 | 一束 |
| 四寸 | 十六本 | 一束 |
| 四寸以下 | 三尺繩メトス | |

筍ノ發生スル際止リ筍ト稱シ伸張五寸乃至一尺五六寸位ニシテ成長ノ中止スルモノアリ此ノ原因ハ主トシテ一個ノ鞭根ヨリ多數ノ筍發生シ生存競争ノ結果養分欠乏ニ因ルモノ及ビ害虫寄生ニヨルモノ等ナリトス之レガ鑑別法ニハ種々アリト雖モ筍發生後竹林ヲ巡視シ筍ノ高サト同一ニ麥桿又ハ小枝ヲ立テ其成長ノ有無ヲ檢スルハ最モ容易ニシテ確實ノ鑑定ナリ其他筍ノ色澤ニヨリ判定スルコト又ハ筍ノ筍部ヲ缺ニテ切り伸張ノ程度ヲ鑑定スルコト早朝筍部ニ水露有無ヲ檢スルコト又ハ筍ニ虫糞附着ノ有無等ニヨリ鑑別スルコトアリ

ロ、皺 竹 (姥竹トモ云フ)

此竹ハ主トシテ遺傳ニ依リ生スルモノ多クシテ竹桿ニ縱皺ヲ生シ使用ニ堪ヘサル不具竹ニシテ生

育スルモ何等利益ナキヲ以テ筍ノ際採集スルヲ可トス其鑑別方法、色澤薄白ク勢力ナキ筍ナリ
其他晩生筍ハ大概不健全竹トナルモノナレバ之ヲ除去シ亦タ過度ニ筍ノ發生セシ場合ハ其内竹
材トシテ見込ナキ不良竹ヲ採取スベシ

ハ、籜 採 收

一、荒 籜

荒籜ノ名稱ハ根元皮ハ龜ト稱シ其上部順次元皮、上皮、卷皮、末皮、筍、ノ區別ニヨルモノ
ニシテ普通竹材一駄ヨリ一貫二三百目ヲ産シ包裝用其他ニ使用スルモノニシテ一貫目約十五
錢計拾九錢五厘ヲ得ベシ

二、枝 皮

枝皮ハ枝元二三枚ニシテ其用途ハ下駄セキダ表等ニ使用スルモノニシテ一貫目六十錢内外ナ
リ竹材一駄ヨリ百五十匁目位拾集シ計金九錢ヲ得ベシ

ニ、竹 枝 採 收

竹枝ハ近來用途大ニ開ケ京都地方ニテハ電燈笠(一名電燈)トシテ專賣特許ヲ得テ南洋地方へ輸
出スルニ至リ小枝一本三厘位ニ昂騰セリ其他籜、垣根等ニ使用セラレ大ニ用途増加スル傾向ア
リ而シテ竹材一駄ニ付收得數量左ノ如シ

(五) 更新新法

苦竹淡竹孟宗竹共三貫目内外壹貫目價格金十錢計三十錢トス

イ、帶狀更新此方法ハ更新スベキ竹林全般ニ渡リ三間乃至四間位ニ區劃シ一ツ置キニ竹材全部ヲ
伐採シ跡地ハ一尺五寸乃至二尺位ノ深サニ開墾シ溝渠狀トナシ之ニ雜草堆肥落葉塵芥馬厩肥等
ヲ入レ土ヲ被ヒ置ク時ハ四ヶ年位ニシテ兩側ヨリ鞭根蔓延シ來リテ成林ス未墾地ニ付テモ前同
様作業ヲナシ更新スルモノナリ而シテ帶狀ノ方向ハ南北縱線トスルモノトス
傾斜地ニ於テ更新スル場合ハ傾斜ニ對シ直角帶狀ニ開墾スルモノナリ
ロ、皆伐更新ハ全林ヲ伐採シ后土入肥料ヲ施スモノナルモ良好ナル更新ニアラズシテ特別ノ場合
ノ外是ヲ行フモノニアラザルナリ

ハ、團狀更新ハ林内各地ニ團地的荒廢セシモノニ行フモノニシテ開墾ノ上肥料ヲ施シ鞭根ヲ誘引
更新セシムルモノナリ

(六) 荒廢竹林ノ手入法

竹林ノ荒廢シタル場合恢復スベキ方法トシテ行フモノニシテ林内ノ老齡竹、病竹傷害竹雜草ヲ除去
シ一坪ニ對シ十二三ヶ所ニ唐鍬ヲ以テ小穴ヲ設ケ之ニ施肥シ藁及雜草等二百匁目一束位ヲ被ヒ后チ
畚ヲ以テ土ヲ運ビ藁束ノ上ニ置キ尙ホ次年モ前年ノ如ク其間ニ繰返シ引續キ三、四年行フ時ハ全林

| 四十二年 | | 計 | | 四十四年 | | 計 | |
|-----------|------|-------------|-------|-----------|-------|-----------|-------|
| 金三十四圓七十五錢 | 竹五十束 | 金一圓五十六錢 | 杭繩伐竹費 | 金三十五圓六錢 | 竹五十七束 | 金一圓四十七錢 | 杭繩伐竹費 |
| 金二十錢 | 竹ノ枝代 | 金四十三錢五厘 | 公課 | 金三十八圓九十五錢 | 東竹 | 金一圓四十七錢 | 費其他雜費 |
| 金十一錢 | 枯竹代 | 金十圓八十錢 | 元資金利息 | 金四十錢 | 筍代 | 金五十二錢 | 公課 |
| 計 | | 金十二圓七十九錢五厘 | | 金二十五錢 | 枝代 | 金十圓八十錢 | 元資金利息 |
| | | 金二十二圓二十六錢五厘 | | 計 | | 金三十九圓六十錢 | |
| | | | | 大正元年 | | 金四十二圓九十五錢 | 竹八十一束 |
| | | | | 金一圓五十五錢 | 雜木代 | 金一圓四十四錢 | 杭繩伐竹費 |
| | | | | 金三十五錢 | 小竹代 | 金五十六錢 | 費其他雜費 |
| | | | | 金六十錢 | 筍代 | 金十圓八十錢 | 元資金利息 |
| 計 | | 金四十五圓四十錢 | | 計 | | 金十二圓七十六錢 | |
| | | | | | | 金二十二圓八十一錢 | |
| | | | | | | 金三十二圓六十四錢 | |

| 大正二年 | | 計 | | 大正三年 | | 計 | |
|-----------|-------|------------|-------|-----------|--------|-----------|-------|
| 金二十八圓七十七錢 | 竹五十六束 | 金一圓六十二錢五厘 | 管理伐竹費 | 金四十七圓九十八錢 | 竹九十五束 | 金五十二錢 | 垣根竹代 |
| 金十三錢 | 小筍代 | 金五十六錢 | 公課 | 金七十七錢 | 竹皮代 | 金十錢 | 杭代 |
| 計 | | 金十圓八十錢 | 元資金利息 | 金一圓四十八錢 | 小竹代 | 金一圓十九錢 | 繩及伐竹費 |
| | | 金十二圓九十八錢五厘 | | 金二十六錢 | 枝代 | 金五十五錢 | 公課 |
| | | 金十五圓九十一錢五厘 | | 計 | | 金十圓八十錢 | 元資金利息 |
| | | | | 大正四年 | | 金十二圓十六錢 | |
| | | | | 金四十六圓四十一錢 | 竹九十四束代 | 金一圓四十六錢 | 伐竹費其他 |
| | | | | 金九十一錢 | 小竹代 | 金五十五錢 | 公課 |
| 計 | | 金五十圓四十九錢 | | 計 | | 金十圓八十錢 | 元資金利息 |
| | | | | | | 金三十八圓三十三錢 | |

| 年次 | 費目 | 數量 | 單價 | 金額 | 備考 | 年次 | 種別 | 數量 | 單價 | 金額 | 備考 |
|----|------|---------------|------------|---------|---------------------------|----|----|----|----|----|----|
| | 肥料 | 人糞尿 一、九〇〇ノ | 〇二〇 | 三、六〇〇 | 大豆粕ナレバ一九〇貫鶏糞ナレバ六百三十貫目 | | | | | | |
| | 施肥人夫 | 二人 | 五〇〇 | 一、〇〇〇 | | | | | | | |
| | 敷草代 | 二、五〇貫 | 〇二〇 | 五〇〇 | | | | | | | |
| | 敷草人夫 | 五人 一人 | 九〇〇 三〇〇 | 五五〇 | | | | | | | |
| | 土入 | 二人 | 五〇〇 | 一、〇〇〇 | | | | | | | |
| | 雜費 | | | 一、〇〇〇 | | | | | | | |
| | 計 | | | 一、四、五〇〇 | | | | | | | |
| 三年 | 除草人夫 | 二人 一人 | 五〇〇 三〇〇 | 三、〇〇〇 | | 三年 | | | | | |
| | 肥料 | 人糞尿 二、七〇〇ノ | 〇二〇 | 五、四〇〇 | 大豆粕ナレバ二百七十貫目 鶏糞ナレバ九百貫目 | | | | | | |
| | 施肥人夫 | 二人 | 五〇〇 | 一、〇〇〇 | | | | | | | |
| | 敷草代 | 三、〇〇貫 | 〇二〇 | 六〇〇 | | | | | | | |
| | 敷草人夫 | 五人 一人 | 五〇〇 三〇〇 | 五五〇 | | | | | | | |
| | 雜費 | | | 一、〇〇〇 | | | | | | | |

110

| 年次 | 費目 | 數量 | 單價 | 金額 | 備考 | 年次 | 種別 | 數量 | 單價 | 金額 | 備考 |
|----|------|---------------|------------|---------|------------------------------|----|----|-----|------|--------|--------------------|
| | 土入 | 三人 | 五〇〇 | 一、五〇〇 | | | | | | | |
| | 計 | | | 一、七、六五〇 | | | | | | | |
| 四年 | 除草人夫 | 二人 一人 | 九〇〇 三〇〇 | 三、〇〇〇 | | 四年 | | | | | |
| | 肥料 | 人糞尿 三、二〇〇ノ | 〇二〇 | 六、四〇〇 | 大豆粕ナレバ三百二十貫目 鶏糞ナレバ千七百七十貫目 | | | | | | |
| | 施肥人夫 | 二人 | 五〇〇 | 一、〇〇〇 | | | | | | | |
| | 敷草代 | 三、二五貫 | 〇二〇 | 六、五〇〇 | | | | | | | |
| | 敷草人夫 | 五人 一人 | 五〇〇 三〇〇 | 五五〇 | | | | | | | |
| | 土入 | 四人 | 五〇〇 | 二、〇〇〇 | | | | | | | |
| | 計 | | | 一八、六五〇 | | | | | | | |
| 五年 | 除草人夫 | 二人 一人 | 五〇〇 三〇〇 | 三、〇〇〇 | | 五年 | 竹材 | 二〇束 | 五〇〇 | 一〇、〇〇〇 | 始メテ伐採シテ一 東五拾錢ツ、 |
| | 肥料 | 人糞尿 三、五〇〇ノ | 〇二〇 | 七、〇〇〇 | 大豆粕ナレバ三百五十貫目 鶏糞ナレバ千七百七十貫目 | | 竹枝 | 一〇束 | 四、五〇 | 四、五〇〇 | |
| | 施肥人夫 | 二人 | 五〇〇 | 一、〇〇〇 | | | | | | | |
| | 敷草代 | 三、五〇貫 | 〇二〇 | 七、〇〇〇 | | | | | | | |
| | 敷草人夫 | 五人 一人 | 五〇〇 三〇〇 | 五五〇 | | | | | | | |

111

| 年次 | 費目 | 数量 | 単價 | 金額 | 備考 | 年次 | 種別 | 数量 | 単價 | 金額 | 備考 |
|------|-----|-----|------|-------|------------------------|-----|------|------|------|--------|----|
| 九年 | 竹伐人 | 四人 | 七〇〇 | 二八〇〇 | | 九年 | 計 | | | 五七三〇 | |
| 計 | | | | 七五四〇〇 | | | | | | | |
| 除草人 | 一人 | 三〇〇 | 三〇〇〇 | 三〇〇〇 | | 九年 | 竹材 | 七〇束 | 一〇〇 | 七〇〇〇 | |
| 肥料 | 人糞尿 | 五〇〇 | 二〇〇 | 一〇〇〇 | 大豆粕ナレバ五十目 鶏糞ナレバ百七十目 | 竹枝 | 七〇束 | 〇四 | 三二五〇 | | |
| 施肥人 | 五人 | 五〇〇 | 二五〇〇 | 二五〇〇 | | 竹ノ皮 | 八〇貫 | 二五〇 | 二〇〇〇 | | |
| 笥堀人 | 一人 | 五〇〇 | 五〇〇〇 | 五〇〇〇 | | 止リ笥 | 九〇貫 | 一〇〇 | 九〇〇〇 | | |
| 止リ笥印 | 三人 | 三〇〇 | 九〇〇 | 九〇〇 | | 計 | | | | 九〇〇〇 | |
| 竹伐人 | 五人 | 七〇〇 | 三五〇〇 | 三五〇〇 | | 十年 | 竹材 | 一〇〇束 | 一〇〇 | 一〇〇〇〇 | |
| 竹ノ皮拾 | 一人 | 三〇〇 | 五〇〇 | 五〇〇 | | 竹枝 | 一〇〇束 | 〇四 | 四〇〇〇 | | |
| 計 | | | | 三〇〇〇 | | 竹ノ皮 | 一一貫 | 三〇〇 | 三三〇〇 | | |
| 除草人 | 一人 | 三〇〇 | 三〇〇〇 | 三〇〇〇 | | 計 | | | | 一〇二一五〇 | |
| 肥料 | 人糞尿 | 五〇〇 | 二〇〇 | 一〇〇〇 | | | | | | | |
| 施肥人 | 五人 | 五〇〇 | 二五〇〇 | 二五〇〇 | | | | | | | |

| 年次 | 費目 | 数量 | 単價 | 金額 | 備考 | 年次 | 種別 | 数量 | 単價 | 金額 | 備考 |
|------|------|-----|------|-------|----|-----|------|-----|--------|--------|----|
| 十二年 | 止リ笥印 | 四人 | 三〇〇 | 一二〇〇 | | 十二年 | 止リ笥 | 一二貫 | 一〇〇 | 一二〇〇 | |
| 計 | | | | 一三〇〇 | | | | | | | |
| 笥堀人 | 一人 | 五〇〇 | 五〇〇〇 | 五〇〇〇 | | 竹枝 | 一三〇束 | 〇四 | 五八五〇 | | |
| 竹ノ皮拾 | 二人 | 三〇〇 | 六〇〇〇 | 六〇〇〇 | | 竹ノ皮 | 一三〇束 | 三五〇 | 四五五〇〇 | | |
| 竹伐人 | 九人 | 七〇〇 | 六三〇〇 | 六三〇〇 | | 止リ笥 | 一五貫 | 一〇〇 | 一五〇〇〇 | | |
| 計 | | | | 三三七〇〇 | | 計 | | | | 一九六三五〇 | |
| 除草人 | 一人 | 三〇〇 | 三〇〇〇 | 三〇〇〇 | | 竹材 | 一五〇束 | 一〇〇 | 一五〇〇〇〇 | | |
| 肥料 | 人糞尿 | 五〇〇 | 二〇〇 | 一〇〇〇 | 同上 | | | | | | |
| 施肥人 | 五人 | 五〇〇 | 二五〇〇 | 二五〇〇 | 同上 | | | | | | |

ハ根莖迄モ全部枯死スルモノト推斷シ開花後直ニ桑畑等ニ開墾ヲナシタルモノ多ク之ガ爲メ竹林ノ減少ヲ見ルニ至レリ是レ誤レルノ甚シキモノニシテ其儘放任シ置クモ八ケ年乃至十ケ年位ニシテ恢復スルモノナリ故ニ一名十年枯ト稱ス其他諸害苦竹ニ同ジ

(二)

イ、立竹 數
淡竹ハ苦竹ヨリ細桿ナルヲ以テ立竹數ハ苦竹ヨリ密ニシテ普通九〇〇本乃至一、五〇〇本位ノ立竹數ヲ可トス

ロ、收穫割合

主産物及副産物共苦竹ニ比シ少額ニシテ約一割五分位減少スルモノナリ而シテ京都地方ニ於ケル數ヶ年平均一町歩竹林收支計算ヲ示セバ左ノ如シ

淡竹林收支計算表

| 竹材 | 收 | | 入 | | 出 | | 備考 |
|----|------|--------|-----|----|----|--------|-----------------|
| | 種目 | 數量 | 單價 | 價格 | 種目 | 數量 | |
| 竹材 | 三六〇束 | 八十七錢五厘 | 三五四 | | 肥料 | 一五荷六十錢 | 人糞尿ヲ施用セシモノトシテ計上 |

| | | | | | | |
|-----|----------|-------|--------|-----------|---------|--------------------|
| 荒障 | 一五〇貫二十錢 | 四五 | 敷草 | 六、〇〇貫一錢六厘 | 三七、五〇〇 | 四ヶ年毎ニ一度施行スルモノトシテ計上 |
| 竹枝 | 五〇〇貫一反半 | 二〇 | 土入 | 八、〇〇貫六厘 | 七、五〇〇 | |
| 止り筍 | 乃至六〇貫十三錢 | 乃至八圓 | 施肥人夫 | 一五人 | 五十五錢 | |
| | | | 除草人夫 | 二〇人 | 三十錢 | |
| | | | 止り堀人夫 | 二〇人 | 一〇、〇〇〇 | |
| | | | 籾拾人夫 | 二〇人 | 一六、〇〇〇 | |
| | | | 垣造人夫 | 一〇人 | 五、〇〇〇 | |
| | | | 管理人夫 | 二〇人 | 一〇、〇〇〇 | |
| | | | 租稅及諸負擔 | | 一〇、〇〇〇 | |
| 計 | | 四三〇、圓 | 計 | | 二〇一、〇〇〇 | |

差引純收入金貳百十六圓乃至二百五十六圓也

第五 孟宗竹栽培法

(一) 沿革

孟宗竹ノ傳來ハ南清江南ヲ原產地ナリト稱ス今ヲ去ル百八十余年元文元年九州島津吉貴公琉球ヨ

各所ニ点々存置スベシ是レ筍發生ヲ畑地一般ニ瀰漫セシメンガ爲メナリ

二、親竹 梢 切 リ

親竹トナス竹ハ筍生長后第一枝ノ攪刺離スル時期ニ於テ上梢ヲ切斷スルモノナリ之筍採收主目的ナルヲ以テ上長成育ノ勢力ヲ鞭根ニ與ヘ發筍ヲ大ナラシムル爲メニ行フモノニシテ必須ノ作業ナリ

而シテ其切り方ハ京都地方ニテハ廻リ一尺ノ親竹ハ十一、二節ヲ殘シ一尺以下ノモノハ十節位殘シテ切斷ス此方法ハ桿先ニ鎌ヲ付シテ切取ルモノナリ

三、塙 籬

塙籬ハ苦竹ト異リ筍ヲ目的トスベキニヨリ床内日光ヲ通シ溫暖ナラシムル必要上設築ノ用ナシ

四、施 肥

肥料ハ人糞尿鶏糞大豆粕推肥厩肥等ヲ可トスルモ施肥量ハ人糞尿ハ二倍ノ水ヲ混シ粕類鶏糞ハ重量ニヨル二十倍ノ水ヲ混シタルモノヲ以テス其ノ他林内各地ニ尺置位ニ小穴ヲ堀リ此内ニ約七、八合位ツ、施シ後チ土ヲ被フ施肥期ハ速効肥料ハ七八月頃遲効肥料ハ十月十二月頃ニ行フヲ可トス

五、草 入 ト 土 入

藁及雜草麥稈等ヲ畑一面ニ敷クモノニシテ九月ヨリ翌年二月迄ニ之ヲ行フ其量四百貫乃至一千貫位ニシテ其上ニ土入ヲナス其量一反歩ニ對シ八九百荷ニシテ敷草ノ見ヘサル程度ヲ適度トシ然シテ板ヲ以テ平均シ凹凸ナク平滑ナラシム斯クノ如ク毎年同一方法ヲ行フモノナリ

更 新

一、更 新 方 法

孟宗畑ハ毎年草入土入ヲ行フモノナレバ順次畑床高上スルノミナラズ遂ニ土取場所ニ困難スルコトアリ此場合ニ於テハ孟宗竹床ノ東南方一部ヨリ順次土取ヲナシ跡地ニハ又母竹ヲ植栽更新スルモノナリ此際ハ林地一定箇所ヨリ探土スルハ運搬上勞力大ナルヲ以テ數ヶ所ニ別チテ行フヲ可トス京都地方ニテハ俗ニ繰り返シト稱ス

二、筍 堀 取 方 法

一、年 末 筍 採 收

京都地方ニテハ見堀筍ト稱シテ十一月末ヨリ二月頃ニ筍採取ヲナス此ノ方法ハ前述ノ如ク九月頃草入ヲナシ置ク時ハ筍ハ幾分暖氣ヲ受ケ地中ニ於テ鞭根ノ淺キモノヨリ筍發生シ床面ニ龜裂ヲ生ズルナリ此際敷草ヲ掻キ分ケ筍ヲ堀取ルモノナリ此場合ノ筍ハ廻リ四、五寸長サ四、五寸

位ノ筍ヲ得其價格一貫目ニ付二三圓ニシテ大ニ利益アリ而シテ採取后ハ直ニ土入ヲ行フモノナリ

二、普通筍ノ採取

筍ハ十月頃ヨリ伸張ヲ始メ翌年三月上旬頃ヨリ發筍スルモノニシテ四月末頃迄ニ終ルモノナリ而シテ發生順序ハ早生中生晩生ノ別アリテ鞭根ノ淺根ナルモノト中庸ナルモノト深根ナルモノトニヨリ發筍ニ早晚ヲ生スルモノナリ而シテ其良否ハ早生ヲ可トシ中生之ニ次キ晩生ハ大ニ劣レリ掘取リ方法ハ三月上旬ヨリ畑地ノ内ヲ巡視シ床面龜裂ヲ見テ竹筍ヲ以テ筍ノ有無ヲ採リ小枝又ハ麥桿等ヲ立テ印トシ翌朝掘取リ取ルヲ普通トシ順次二日置位ニ以上ノ方法ニ依リ採收シ四月末迄ニ採筍ヲ終ルモノナリ掘取リ取リ方法ハ熟練ノ如何ニヨリ利害甚シキモノニシテ京都地方一人一日掘取リ量ハ百貫目以上百五十貫位ヲ得ルモ劣者ハ二三十貫位ニシテ然モ鞭根及筍ヲ毀損シ大ナル損害ヲ招クモノナリ而シテ掘取リ后ハ穴肥ト稱シテ筍掘取リタル穴ニ施肥スルヲ普通トス此場合人糞尿ハ一反歩百貫目大豆粕十貫目内外ニシテ何レモ鞭根保育ノ目的ニ外ナラズ筍收穫量ハ施肥手入方法ノ如何ニヨリ差異甚シキモノニシテ京都地方ニテハ一反歩三百貫ヨリ六百貫即チ五十圓ヨリ百圓ノ差違ヲ生ズルモノニシテ孟宗畑ノ栽培ハ他ノ竹林培養ヨリ尙一層ノ手入ヲ要スルナリ

ホ、收支計算表

京都地方ニ於ケル孟宗畑收支左ノ如シ

孟宗畑壹町歩收支計算表

| 支 | | | | 出 | | | | 收 | | | |
|----|-------|--------|-----|-------|-----------------------|----|----|----|----|----|----|
| 年次 | 費目 | 數量 | 價單 | 金額 | 備考 | 年次 | 種別 | 數量 | 價單 | 金額 | 備考 |
| 初年 | 開墾費 | 男 三〇人 | 五〇〇 | 一五〇〇〇 | 一坪五錢宛 | | | | | | |
| | 母竹代 | 五〇株 | 二五〇 | 一二五〇〇 | 一反當リ五十株植トス | | | | | | |
| | 母竹掘取人 | 男 三〇人 | 五〇〇 | 一五〇〇〇 | 掘取一人ニ付十七株トス | | | | | | |
| | 母竹運搬人 | 男 二〇人 | 五〇〇 | 一〇〇〇〇 | 二十ト株運ヒ一人トス | | | | | | |
| | 植付人 | 男 三〇人 | 五〇〇 | 一五〇〇〇 | 十七株ヲ以テ壹人トス | | | | | | |
| | 支柱竹 | 一、五〇〇本 | 〇一〇 | 一五〇〇〇 | 植付セシ竹防風ノ爲一丈ニ付三本細代人夫賃共 | | | | | | |
| | 敷草代 | 五〇〇貫 | 〇二〇 | 一〇〇〇〇 | 草一町目ニ付二錢 | | | | | | |
| | 敷草人夫 | 五人 | 五〇〇 | 二五〇〇 | 現場直段 | | | | | | |

| 年次 | 費目 | 數量 | 單價 | 金額 | 備考 | 年次 | 種別 | 數量 | 單價 | 金額 | 備考 |
|----|------|----------------------|-----|--------|-------------------------|----|----|----|----|----|----|
| 初年 | 肥料 | 人糞尿 二、〇〇〇貫 | 〇二〇 | 四〇〇〇〇 | 大豆粕ナレバ二〇〇貫 買糞ナレバ三〇〇貫 | | | | | | |
| 同 | 土 | 入男 一〇人 | 五〇〇 | 五〇〇〇 | | | | | | | |
| 同 | 施肥人夫 | 一〇人 | 五〇〇 | 五〇〇〇 | | | | | | | |
| 同 | 除草人夫 | 男 三〇人 女 三〇人 | 二〇〇 | 二四〇〇〇 | | | | | | | |
| 計 | | | | 四一六五〇 | | | | | | | |
| 二年 | 除草人夫 | 男 二〇人 女 四〇人 | 三〇〇 | 二二〇〇〇 | | | | | | | |
| 同 | 肥料 | 人糞尿 二、五〇〇貫 | 〇二〇 | 五〇〇〇 | 大豆粕ナレバ三〇〇貫 買糞ナレバ三〇〇貫 | | | | | | |
| 同 | 施肥人夫 | 二〇人 | 五〇〇 | 一〇〇〇 | | | | | | | |
| 同 | 敷草代 | 一、五〇〇貫 | 〇二〇 | 五〇〇〇〇 | | | | | | | |
| 同 | 敷草人夫 | 男 五〇人 女 一〇人 | 三〇〇 | 五五〇〇 | | | | | | | |
| 同 | 土 | 入男 二〇人 | 五〇〇 | 一〇〇〇〇 | | | | | | | |
| 同 | 雜費 | | | 一〇〇〇〇 | | | | | | | |
| 計 | | | | 一五七五〇〇 | | | | | | | |

| 年次 | 費目 | 數量 | 單價 | 金額 | 備考 | 年次 | 種別 | 數量 | 單價 | 金額 | 備考 |
|----|------|----------------------|-----|--------|------------------------|----|------|-----|-------|----|----|
| 三年 | 除草人夫 | 男 二〇人 女 四〇人 | 三〇〇 | 二二〇〇〇 | | | | | | | |
| 同 | 肥料 | 人糞尿 三、〇〇〇貫 | 〇二〇 | 六〇〇〇〇 | 大豆粕ナレバ三〇〇貫 買糞ナレバ九〇貫 | | | | | | |
| 同 | 施肥人夫 | 一五人 | 五〇〇 | 七五〇〇 | | | | | | | |
| 同 | 敷草代 | 三、〇〇〇貫 | 〇二〇 | 六〇〇〇〇 | | | | | | | |
| 同 | 敷草人夫 | 男 五〇人 女 一〇人 | 三〇〇 | 五五〇〇 | | | | | | | |
| 同 | 土 | 入男 三〇人 | 五〇〇 | 一五〇〇〇 | | | | | | | |
| 同 | 雜費 | | | 一〇〇〇〇 | | | | | | | |
| 計 | | | | 一八〇〇〇〇 | | | | | | | |
| 四年 | 除草人夫 | 男 二〇人 女 四〇人 | 三〇〇 | 三三〇〇〇 | | 箱 | 100貫 | 150 | 15000 | | |
| 同 | 肥料 | 人糞尿 三、二〇〇貫 | 〇二〇 | 六四〇〇〇 | | | | | | | |
| 同 | 敷草代 | 三、二〇〇貫 | 〇二〇 | 六四〇〇〇 | | | | | | | |
| 同 | 施肥人夫 | 一五人 | 五〇〇 | 七五〇〇 | | | | | | | |
| 同 | 敷草人夫 | 男 五〇人 女 一〇人 | 三〇〇 | 五五〇〇 | | | | | | | |
| 同 | 土 | 入男 三〇人 | 五〇〇 | 一五〇〇〇 | | | | | | | |
| 同 | 雜費 | | | 一〇〇〇〇 | | | | | | | |
| 計 | | | | 一八〇〇〇〇 | | | | | | | |
| 同 | 施肥人夫 | 一五人 | 五〇〇 | 七五〇〇 | | | | | | | |
| 同 | 敷草代 | 三、〇〇〇貫 | 〇二〇 | 六〇〇〇〇 | | | | | | | |
| 同 | 敷草人夫 | 男 五〇人 女 一〇人 | 三〇〇 | 五五〇〇 | | | | | | | |
| 同 | 土 | 入男 三〇人 | 五〇〇 | 一五〇〇〇 | | | | | | | |
| 同 | 雜費 | | | 一〇〇〇〇 | | | | | | | |
| 計 | | | | 一八〇〇〇〇 | | | | | | | |
| 同 | 施肥人夫 | 一五人 | 五〇〇 | 七五〇〇 | | | | | | | |
| 同 | 敷草代 | 三、〇〇〇貫 | 〇二〇 | 六〇〇〇〇 | | | | | | | |
| 同 | 敷草人夫 | 男 五〇人 女 一〇人 | 三〇〇 | 五五〇〇 | | | | | | | |
| 同 | 土 | 入男 三〇人 | 五〇〇 | 一五〇〇〇 | | | | | | | |
| 同 | 雜費 | | | 一〇〇〇〇 | | | | | | | |
| 計 | | | | 一八〇〇〇〇 | | | | | | | |
| 同 | 施肥人夫 | 一五人 | 五〇〇 | 七五〇〇 | | | | | | | |
| 同 | 敷草代 | 三、〇〇〇貫 | 〇二〇 | 六〇〇〇〇 | | | | | | | |
| 同 | 敷草人夫 | 男 五〇人 女 一〇人 | 三〇〇 | 五五〇〇 | | | | | | | |
| 同 | 土 | 入男 三〇人 | 五〇〇 | 一五〇〇〇 | | | | | | | |
| 同 | 雜費 | | | 一〇〇〇〇 | | | | | | | |
| 計 | | | | 一八〇〇〇〇 | | | | | | | |
| 同 | 施肥人夫 | 一五人 | 五〇〇 | 七五〇〇 | | | | | | | |
| 同 | 敷草代 | 三、〇〇〇貫 | 〇二〇 | 六〇〇〇〇 | | | | | | | |
| 同 | 敷草人夫 | 男 五〇人 女 一〇人 | 三〇〇 | 五五〇〇 | | | | | | | |
| 同 | 土 | 入男 三〇人 | 五〇〇 | 一五〇〇〇 | | | | | | | |
| 同 | 雜費 | | | 一〇〇〇〇 | | | | | | | |
| 計 | | | | 一八〇〇〇〇 | | | | | | | |
| 同 | 施肥人夫 | 一五人 | 五〇〇 | 七五〇〇 | | | | | | | |
| 同 | 敷草代 | 三、〇〇〇貫 | 〇二〇 | 六〇〇〇〇 | | | | | | | |
| 同 | 敷草人夫 | 男 五〇人 女 一〇人 | 三〇〇 | 五五〇〇 | | | | | | | |
| 同 | 土 | 入男 三〇人 | 五〇〇 | 一五〇〇〇 | | | | | | | |
| 同 | 雜費 | | | 一〇〇〇〇 | | | | | | | |
| 計 | | | | 一八〇〇〇〇 | | | | | | | |
| 同 | 施肥人夫 | 一五人 | 五〇〇 | 七五〇〇 | | | | | | | |
| 同 | 敷草代 | 三、〇〇〇貫 | 〇二〇 | 六〇〇〇〇 | | | | | | | |
| 同 | 敷草人夫 | 男 五〇人 女 一〇人 | 三〇〇 | 五五〇〇 | | | | | | | |
| 同 | 土 | 入男 三〇人 | 五〇〇 | 一五〇〇〇 | | | | | | | |
| 同 | 雜費 | | | 一〇〇〇〇 | | | | | | | |
| 計 | | | | 一八〇〇〇〇 | | | | | | | |
| 同 | 施肥人夫 | 一五人 | 五〇〇 | 七五〇〇 | | | | | | | |
| 同 | 敷草代 | 三、〇〇〇貫 | 〇二〇 | 六〇〇〇〇 | | | | | | | |
| 同 | 敷草人夫 | 男 五〇人 女 一〇人 | 三〇〇 | 五五〇〇 | | | | | | | |
| 同 | 土 | 入男 三〇人 | 五〇〇 | 一五〇〇〇 | | | | | | | |
| 同 | 雜費 | | | 一〇〇〇〇 | | | | | | | |
| 計 | | | | 一八〇〇〇〇 | | | | | | | |

| 年次 | 費目 | 數量 | 價單 | 金額 | 備考 |
|-----|--------|-------|-----|-----------|-------------|
| 九年 | 計 | | | 三三三〇〇 | |
| 十年 | 計 | | | 三三三〇〇 | |
| 十一年 | 計 | | | 三三三〇〇 | |
| 十二年 | 計 | | | 三三三〇〇 | |
| 十三年 | 計 | | | 三三三〇〇 | |
| 十四年 | 計 | | | 三三三〇〇 | |
| 十五年 | 計 | | | 三三三〇〇 | |
| 十六年 | 計 | | | 三三三〇〇 | |
| 十七年 | 計 | | | 三三三〇〇 | |
| 十八年 | 計 | | | 三三三〇〇 | |
| 十九年 | 計 | | | 三三三〇〇 | |
| 二十年 | 計 | | | 三三三〇〇 | |
| 合計 | | | | 五、七九七、〇〇〇 | |
| 九年 | 筍 | 三、五〇〇 | 一五〇 | 五二五、〇〇〇 | |
| 十年 | 其 他 | 四、〇〇〇 | 一五〇 | 六〇〇、〇〇〇 | 母竹伐探八〇東二〇 |
| 十一年 | 其 他 | 五、〇〇〇 | 一五〇 | 七五〇、〇〇〇 | 皮枝母竹伐探八〇東二〇 |
| 十二年 | 其 他 | 五、〇〇〇 | 一五〇 | 七五〇、〇〇〇 | 皮枝母竹伐探八〇東二〇 |
| 十三年 | 其 他 | 五、〇〇〇 | 一五〇 | 七五〇、〇〇〇 | 皮枝母竹伐探八〇東二〇 |
| 十四年 | 其 他 | 五、〇〇〇 | 一五〇 | 七五〇、〇〇〇 | 皮枝母竹伐探八〇東二〇 |
| 十五年 | 其 他 | 五、〇〇〇 | 一五〇 | 七五〇、〇〇〇 | 皮枝母竹伐探八〇東二〇 |
| 十六年 | 其 他 | 五、〇〇〇 | 一五〇 | 七五〇、〇〇〇 | 皮枝母竹伐探八〇東二〇 |
| 十七年 | 其 他 | 五、〇〇〇 | 一五〇 | 七五〇、〇〇〇 | 皮枝母竹伐探八〇東二〇 |
| 十八年 | 其 他 | 五、〇〇〇 | 一五〇 | 七五〇、〇〇〇 | 皮枝母竹伐探八〇東二〇 |
| 十九年 | 其 他 | 五、〇〇〇 | 一五〇 | 七五〇、〇〇〇 | 皮枝母竹伐探八〇東二〇 |
| 二十年 | 其 他 | 五、〇〇〇 | 一五〇 | 七五〇、〇〇〇 | 皮枝母竹伐探八〇東二〇 |
| 合計 | | | | 九、八〇〇、〇〇〇 | |

收支差引金四千〇十一圓九十錢利益トナル

第六 本縣竹林ニ對スル獎勵施設

(一) 自然枯ニ對スル諭告

竹林自然枯ニ關スル件 (明治三十八年八月 靜岡縣諭告第七號)

本縣下特ニ駿遠各地ノ淡竹林ハ兩三年以來自然枯發生シ漸次蔓延猖獗ヲ極メ今ヤ將ニ有ユル淡竹林ヲ舉ケテ枯死ノ慘狀ニ陥ラシメツ、アル而已ナラス苦竹林ノ一部分亦其被害ノ兆候アリト聞ク竹林所有者ノ經濟ヲ紊亂シ一般需用ノ竹材供給ヲ失スルニ至ル之カ損害少ナカラサルニヨリ速ニ其被害救済ノ方法ヲ講シ其ノ實行ヲ期スルハ目下ノ急務ト認ム依テ竹林所有者ハ左記竹林自然枯ノ注意書ニ據リ所示ノ事項ヲ勵行シ以テ被害防止ヲカムベシ

右 諭 告 ス (注意書ヲ省略ス)

(二) 竹林獎勵金交付規程 (大正六年三月二十七日 靜岡縣令第十七號)

第一條 市町村市町村組合町村組合社寺又ハ私人ニシテ新ニ竹林ヲ造成シ又ハ更新シタルトキハ本規程ニヨリ毎年度豫算ノ範圍内ニ於テ其ノ施業者ニ獎勵金ヲ交付ス

第二條 獎勵金ヲ交付スヘキ竹林ハ苦竹淡竹孟宗竹黒竹ニシテ左記各號ノ一ニ該當スルモノニ限ル

- 一、一ヶ所面積五畝歩以上ノ土地ニ一反歩當リ苦竹淡竹ハ六十本以上孟宗竹ハ三十本以上黒竹ハ百本以上ヲ新植シタルモノ
- 二、一ヶ所面積五畝歩以上ノ竹林ヲ更新ノ爲五十坪以上開墾シタルモノ
- 第三條 獎勵金ハ左ノ標準ニ依リ母竹本數經費ノ多寡事業ノ難易又ハ計畫ノ良否ヲ斟酌シテ之ヲ定ム
 - 一、新植ニアリテハ面積一反歩ニ付金拾圓以内
 - 二、更新ニアリテハ開墾面積百坪ニ付金拾圓以内
- 第四條 獎勵金ノ交付ヲ受ケムトスルモノハ毎年六月末日迄ニ申請書(第一號様式又ハ)ニ左記書類ヲ添ヘ所屬町村役場郡市役所ヲ經由シ知事ニ差出スヘシ
 - 一、竹林新植(更新)地區圖 第三號様式(第四號様式)
 - 二、市町村市町村組合町村組合ニアリテハ其ノ決議書寫
 - 三、他人ノ土地ヲ使用シテ新植又ハ更新ヲ爲サムトスルモノハ其ノ土地使用權ヲ證スル書面
- 第五條 獎勵金交付ノ指令ヲ受ケタル者ハ其ノ年度内ニ於テ必ラス其ノ事業ヲ終了スヘシ
- 第六條 獎勵金交付ノ指令ヲ受ケタル後事業ノ計畫ヲ變更セムトスルトキハ知事ノ認可ヲ受クヘシ
- 第七條 事業終了シタルトキハ直ニ成功届(第五號様式)ヲ差出スヘシ
- 第八條 竹林ノ施業ハ左ノ方法ニ據ルヘシ
 - 一、母竹ハ一年生又ハ二年生ノモノ若ハ其根株又ハ健全ナル鞭根ヲ用フヘシ
 - 二、更新ハ現在荒廢セル竹林ニ於テ相當間隔毎ニ開墾ヲナシ隣接竹種ノ蔓延繁殖ヲ促シ爾後同様ノ更新ヲ全林ニ行フヘシ
 - 三、母竹植栽後枯損若クハ傷害アリタル場合ハ必ラス之ヲ補植スヘシ
 - 四、獎勵金ヲ受ケタル年ヨリ少ナクトモ五年間毎年除草施肥敷草ヲ爲スヘシ
 - 五、母竹植栽地及新竹發生セル更新地ハ三年間ニ一回土入ヲ施シ適當ノ手入れ保護ヲ爲スヘシ
 - 六、常ニ病虫害其ノ他災害ノ豫防驅除ニ注意シ其ノ保護監視ニ努ムヘシ
 - 七、前號ノ災害ニ罹リタルトキハ其ノ都度被害ノ狀況ヲ知事ニ報告シ之カ復舊施業ニ努ムヘシ

第九條 本規程又ハ申請書記載事項ニ違背シ其他不正ノ所爲アリタルトキハ其ノ指令ヲ取消シ又ハ獎勵金ノ減額若シクハ還付ヲ命スルコトアルヘシ

附 則

本規程ハ大正六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
 本規程ハ大正三年靜岡縣令第三十二號造林獎勵補助金下付規程同年靜岡縣令第三十四號荒廢地復舊補助金下付規程ニ依リ補助金ヲ受ケタルモノニハ之ヲ適用セス

第一號樣式

竹林獎勵金交付申請書

| | | | | |
|--------|----------------------------------|---------|-------|---|
| 所在地 | 郡(市) 町(村) | 大字 | 字 | 番 |
| 土地所有者 | 氏名 | | | |
| 地目及全面積 | 山林(原野) (何) 反 畝 步 | | | |
| 現況 | 雜木林 草地 畑 何々 | | | |
| 新植實測面積 | 反 畝 步 | | | |
| 竹種及本數 | 苦竹(淡竹) (何) 一年生 本本 | | | |
| 施業方法 | 竹幹植付、根株植付、鞭根植付、支柱ニヨリ動遙ヲ防ク排水溝ヲ設ク等 | | | |
| 施業期間 | 年 月 日着手 | 年 月 日終了 | | |
| 經費 | 圓 錢 | 一反歩ニ付 | 圓 錢ノ割 | |

右ノ通竹林新植可致候間相當御補助相成度此段及申請候也

年 月 日 知事宛

住所

氏

名

第二號樣式

竹林獎勵金交付申請書

| | | | | |
|--------|-------------------------|---------|-------|---|
| 所在地 | 郡(市) 町(村) | 大字 | 字 | 番 |
| 土地所有者 | 氏名 | | | |
| 地目及全面積 | 山林(何) 反 畝 步 | | | |
| 現在竹林面積 | 反 畝 步 | | | |
| 更新坪數 | 何 坪 | | | |
| 施業方法 | 現在竹林内何間々隔毎ニ幅何尺長何間ノ短冊形開墾 | | | |
| 施業期間 | 年 月 日着手 | 年 月 日終了 | | |
| 經費 | 圓 錢 | 一坪ニ付 | 圓 錢ノ割 | |

右ノ通竹林更新可致候間相當御補助相成度此段及申請候也

年 月 日 知事宛

住所

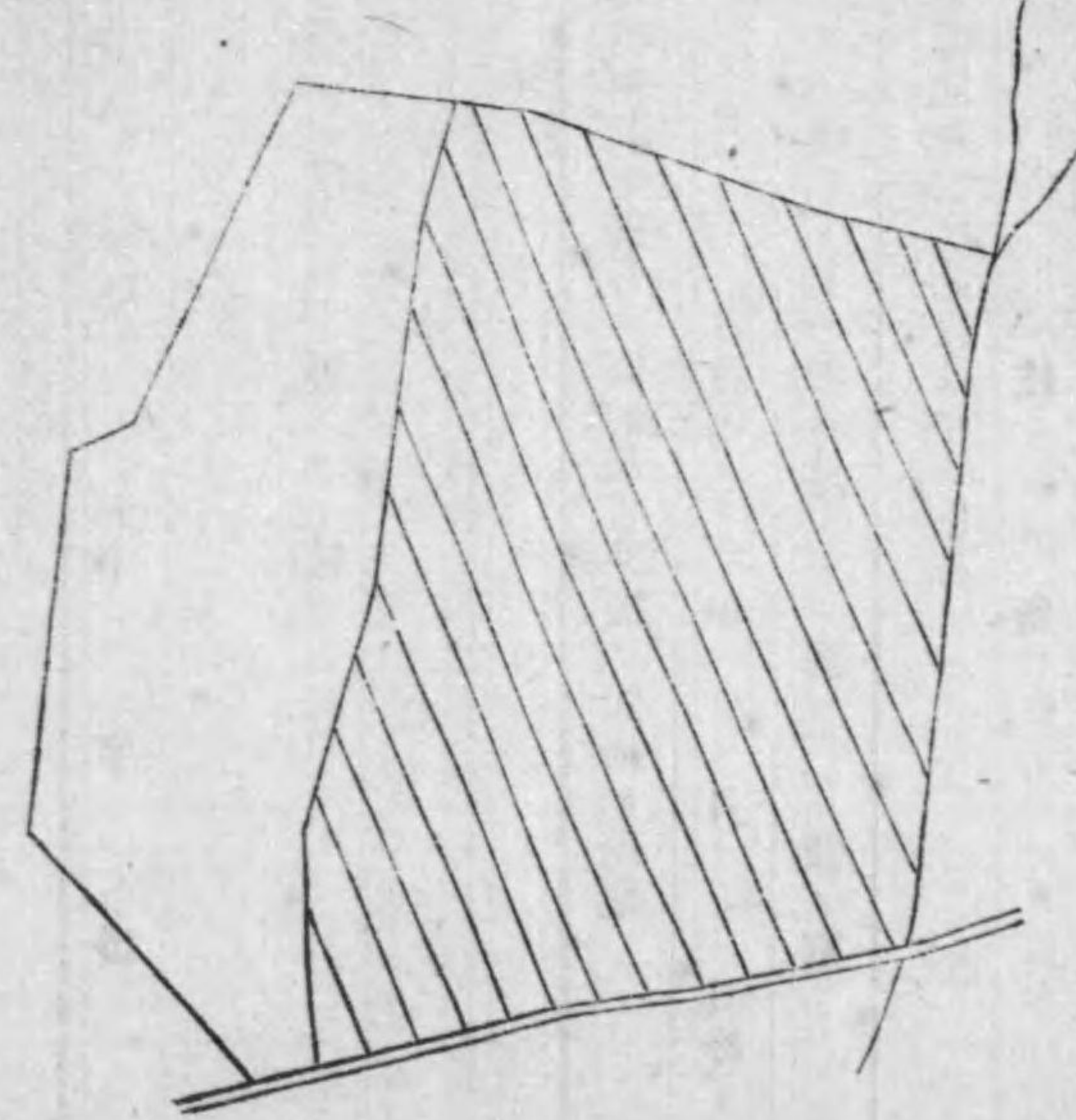
氏

名

第三號樣式

竹 林 新 植 地 區 圖
一ノ分百何

郡 町(村) 大字 番
山林(原野)(畑)
反 畝 步ノ内
新植面積
反 畝 步



河川 道路 新植地 何

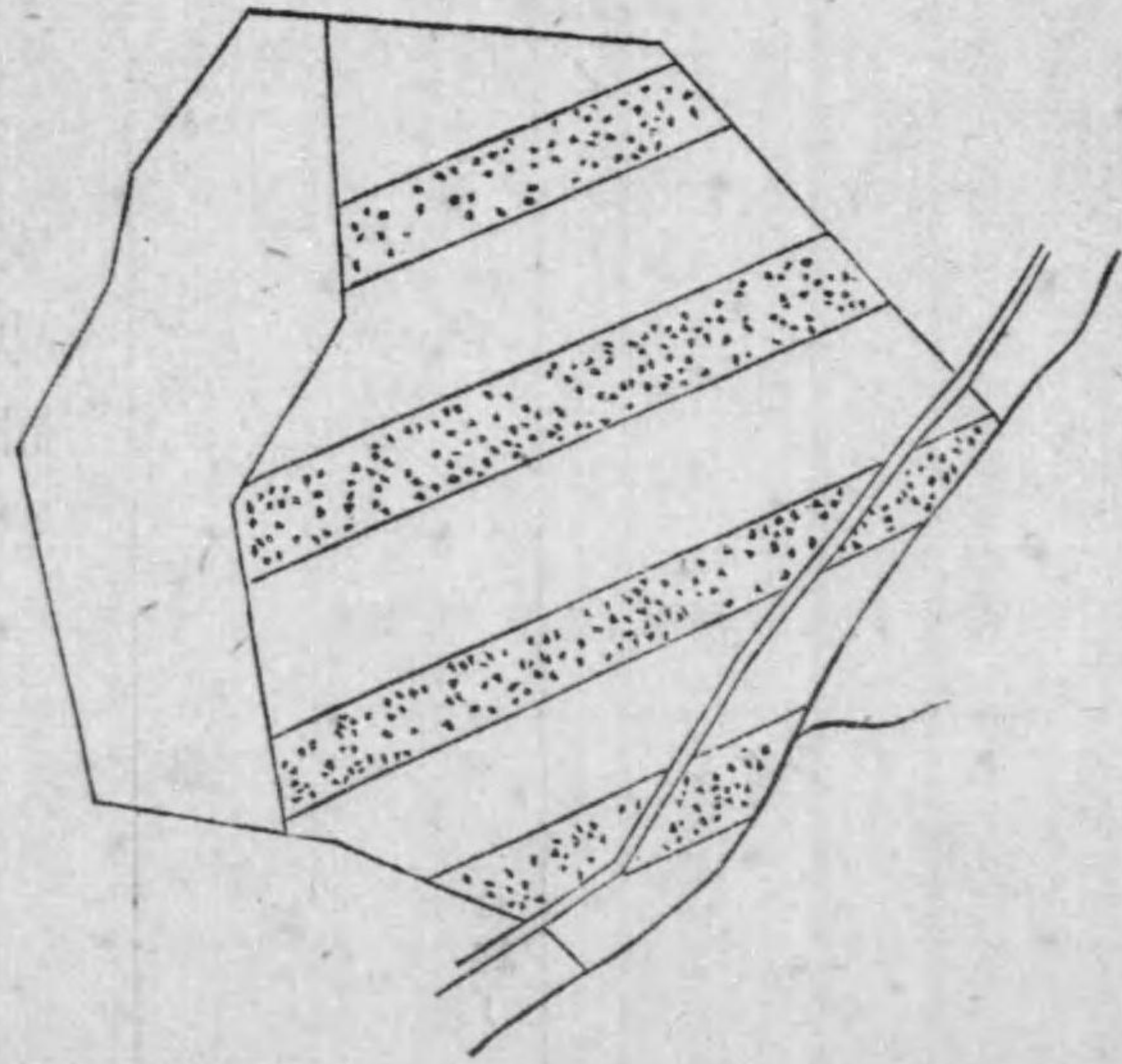


(色赤) (色藍)

第四號樣式

竹 林 更 新 地 區 圖
一ノ分百何

郡 町(村) 大字 番
山林(何) 反 畝 步ノ内
開墾面積
坪



河川 道路 開墾地 何



(色赤) (色藍)

竹林新植(更新)成功届

| | | | | | |
|-------|---|------|----|------|----------|
| 所在地 | 郡 | 町(村) | 大字 | 字 | 番 |
| 施業面積 | 反 | 畝 | 步 | (坪) | |
| 指令 | 年 | 月 | 日 | 指令山第 | 號 |
| 著手及終了 | 年 | 月 | 日 | 着手 | 年 月 日 終了 |

右之通成功致候間御検査被下度此段及御届候也

年 月 日 住所

氏名

知事宛

(三) 從來講話會開會町村

縣下竹林講話ヲ行ヒタル町村別

| | | | | | | | | | | | | |
|-----|--------------|---------|---------|--------|------------|---------|------------|-----------|-------------|----------|--------|-----|
| 時日 | 明治四十四年三月十七日 | 同 三月十八日 | 同 三月十九日 | 同 三月廿日 | 大正二年十月二十五日 | 同 十月廿七日 | 大正五年十一月廿日 | 大正六年一月三十日 | 大正六年三月三十日 | 同 三月三十一日 | 同 四月一日 | 同日 |
| 郡名 | 榛原郡 | 志太郡 | 庵原郡 | 田方郡 | 田方郡 | 同 | 駿東郡 | 榛原郡 | 富士郡 | 同 | 田方郡 | 同 |
| 町村名 | 勝間田村 | 藤枝町 | 松野村 | 三島町 | 對島村 | 小室村 | 御殿場町 | 初倉村湯日 | 吉原町 | 同 | 田中村 | 三島町 |
| 講師名 | 岐阜縣竹林大家 井伊助翁 | 同 | 同 | 同 | 静岡縣技師 藤矯治 | 同 | 静岡縣技師 岩田雄作 | 同 | 京都府竹林大家 菊之助 | 同 | 同 | 同 |

| | | | | | | | |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|----|
| 同日 | 同日 | 同日 | 同日 | 同日 | 同日 | 同日 | 同日 |
| 六日 | 八日 | 十日 | 十二日 | 十三日 | 十四日 | 十六日 | 同日 |
| 安倍郡 | 志太郡 | 小笠郡 | 周智郡 | 磐田郡 | 同 | 引佐郡 | 同日 |
| 賤機村 | 德山村 | 西方村 | 森町 | 中泉町 | 二俣町 | 西濱名村 | 同日 |
| 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同日 |
| 講師名 | 講師名 | 講師名 | 講師名 | 講師名 | 講師名 | 講師名 | 同日 |

大正六年八月十六日印刷
 大正六年八月十九日發行

靜岡縣內務部

靜岡市馬場町十六番地

印刷者 半田辰平

靜岡市馬場町十六番地

印刷所 半田活版部

327
10/5

終

